

# 「岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）」

## 委員公募のお知らせ

### 研究企画委員会

標記研究小委員会の設立が理事会にて承認を受けましたので、会員の皆様に委員の公募を行います。以下の設立に関する事項をご理解の上、参加ご希望の方はお申し込みください。

なお、同様の公募資料は次号学会誌(第48巻第2号 2007年6月)に掲載予定です。

- 記 -

委員会名：岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）

委員長候補：平野勇（（独）土木研究所）

委員予定数：約20名

委員会活動期間(予定)：平成19年度～平成21年度(3年間)

申し込み方法：e-mail、Fax、郵送のいずれかによる

申し込み先：日本応用地質学会事務局内

「岩盤分類再評価研究小委員会（第二期）」設立準備会

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-3-14 御茶ノ水桜井ビル

e-mail [KYW04560@nifty.com](mailto:KYW04560@nifty.com) Fax 03-3259-8233

申し込み期限：平成19年7月6日(金)

#### （設立趣意）

岩盤分類再評価研究小委員会では、これまでの岩盤分類手法を再評価し、さらなる地質調査および岩盤評価技術の発展の礎とするための調査・研究を行いました。その結果 計画・調査の段階から設計、施工、管理の段階に至る一連の地質調査および岩盤評価における岩盤分類の位置づけおよび適用上の問題点についての現状と動向を分析し、岩盤性状の地質要素と工学的特性および設計、施工等の関係を分析すると同時に、岩盤分類に適用される各種調査・計測技術の現状と動向を分析することにより、地質技術の基準化・国際化を踏まえた岩盤分類手法、および調査から設計、施工、管理に至る流れにおける岩盤分類の合理的な適用手法を検討しました。

これらの研究成果は、2002年度シンポジウム、2005年度研究発表会などにおいて順次公表しました。さらに2007年度シンポジウムにおいてこれまでの研究成果をとりまとめて公表する予定であり、このシンポジウムでの公表により、既存の岩盤分類の再評価についてはおおむね所期の目的を達成したと考えています。

我が国の岩盤分類に関する技術は、応用地質学や地盤工学発展の礎となり、ダム、橋梁、原子力基礎、トンネル、地下空洞、切土法面等の各種大型構造物における設計・施工技術等に深く関与するものであります。また、今後とも多くの若い地質技術者や研究者が、こういった地質や岩盤に係わる応用地質やその実務分野に参入してくることが期待されます。

このような状況から、岩盤分類再評価研究小委員会としては、これまでの研究成果を活用し、従来の岩盤分類の基礎技術や最新技術を集約した上で体系的・総括的に取りまとめることで、若手地質技術者や関連技術者を対象とした技術書を作成することが必要であると考えております。この技術書の刊行および技

術書を用いた講習会の実施等により、岩盤分類技術の向上と普及・継承に寄与することが期待され、今後の岩盤分類技術の発展、ひいては地質技術の発展につながるものと考えております。

また、小委員会における研究の過程においては、従来の岩盤分類とは異なった視点による分類事例があることが確認されました。例えばダム基礎・地下空洞における透水性に着目した基礎岩盤や地山の分類事例、建設ズリにおける重金属溶出についての分類事例、地すべりにおける移動土塊を分類した事例、ダムにおける低品質骨材の分類事例、寒冷地における岩盤路床の長期安定性のための地盤分類事例等であります。これらは、地質技術における岩盤分類に対するニーズが多様化してきていることを示しているもので、このような事例を調査・分析することも、これからの新たな分野に対する地盤分類技術の発展に寄与するという点で、時宜を得ているのではないかと考えられます。

以上を背景として、新たに委員を公募・拡充して第二期岩盤分類再評価研究小委員会を設立するものがあります。第二期岩盤分類再評価研究小委員会においては、第一期岩盤分類再評価研究小委員会における成果をベースとし、さらに岩盤分類に関する新たな分野についての研究を行い、その研究成果を加えて、若手地質技術者や関連技術者を対象とした技術書を取りまとめることを目的とします。

以 上